

第三者評価結果の公表事項（児童養護施設）

①第三者評価機関名

有限会社 アウルメディカルサービス

②施設名等

名称： 社会福祉法人恵聖会 玉島学園

種別： 児童養護施設

施設長氏名： 田邊 弘

定員： 50名

所在地： 岡山県倉敷市玉島長尾3729

T E L : 086-525-2020

③実施調査日

平成 25年 10月 3日 ~ 平成 26年 2月 19日

④総評

◇特に評価が高い点

【ホームページの充実】

カラフルで親しみやすいホームページを作成している。学園の沿革や施設の様子、年間行事の紹介、ブログなど施設の取り組みが分かりやすく紹介されている。実際にホームページを見てボランティアや寄付金の申し出、外国からのメッセージなどもあったとお聞きした。インターネットという媒介を通して、いろいろな人に児童養護施設を知って頂くよい機会となっている。忙しい業務の合間にブログ更新など大変だとは思いますが、今後も継続して頂きたい。

【外部講師を招いての職員研修】

勤務期間の長い職員が多いこともあり、大学教授や学識者、県外の施設職員など様々な方とのつながりが深い。折に触れて講師として招き、施設内で研修を実施している。その分野も様々であり、発達障がいについて等、その時の課題に基づいた内容で計画している。また、職員旅行では他県の施設見学も兼ねており、他の施設を見る事で1人ひとりの職員が支援について振り返る機会となっている。

【地域との交流】

地域と共に歩んできた施設であり、地域の方にも親しまれている。町内会の夏祭りや清掃活動、グリーン作戦、学区の運動会などにも積極的に参加している。夏休みには地域の子供たちが利用できるよう、時間を決めて施設のプールを開放している。昨年度より施設の一角を活用し、ホテルが育つ環境作りにも参加している。ホテルの生育を保護する為、小川の周辺は立ち入り禁止となり困惑することもあるが、今後ホテルが増え、子ども達や地域の方が見物できると思えば楽しみな取り組みでもある。

【地産地消の食事】

倉敷市玉島は晴れの日が多く、野菜や果物、魚などの美味しい地域である。食材は地元の業者より仕入れており、贅沢な限りである。他にも地域の障害者作業所より新玉ねぎや新じゃがいもを仕入れるなど地元の食材を活用している。また、地域の方がナスやネギ、ゴーヤなど差し入れてくれることもある。訪問した日にはカゴいっぱいナスの差し入れがあり、子ども達が食堂へ運ぶのを手伝っていた。こういった差し入れにより一品追加となることも多いとのこと。食育の面では大学生がゼミの活動として毎年テーマを変え、子ども達に分かりやすく紙芝居など作り、教えてくれるのが恒例となっている。こうした繋がりが継続している事は本当に素晴らしいと感じる。

◇改善が求められる点

【施設の老朽化】

昭和37年に現在の玉島へ移転となり、50年が経過している。これまでに改築もあったが、施設を見学していると老朽化が進んでおり、網戸のほころびや柱の錆などが目立っている。随時職員が改修しているものの追いついていないのが現状である。子どもが快適に暮らすことができる生活空間になるよう、子どもと一緒に話し合い、補修作業など子どもにも手伝ってもらいながら、自分たちの家づくりを体験してみてもうだろうか。物を大事にする気持ちを育むことへも繋がると思われる。また、小規模化に向けて具体的な中、長期計画を検討して頂くことを期待している。

【内部研修への取り組み】

外部からの講師による研修は多く、勉強になる部分も多いと思われる。しかし、日常業務の中に取り入れることができる身近な研修の機会も必要ではないだろうか。職員が何を知りたいと思っているかを把握し、内部での研修を実施してはどうか。臨床心理士や家族支援専門員、児童指導員など専門職より事例をあげながら一つ一つの事柄を深めていくことで、お互いに協力し合いながらスキルアップできる体制作りを期待している。

【職員のモチベーションアップへの取り組み】

訪問した時期の子どもの状況もあり、職員の表情が暗く、覇気がないのが気になった。一部の子ども達がリーダーを中心として集団化し、職員や学校の先生にも反抗している。学校に行ってもすぐに帰園し、施設の中で仲間と一緒に大声を出したり、走り回ったりしている状態が続き、職員からの言葉に全く耳を傾けようとしなない。児童相談所とも連携し現状打破を試みているが、子どもからの重なる反抗に職員は段々と無気力になり、意欲が低下しているのが現状である。こうなった要因としてはいくつもの背景が重なっていると思われる。今一度、園長を中心に職員は初心に戻り、どのような支援がしたかったのか等、話し合いの場を持ってほしい。職員1人ひとりが子どもの未来を考え、笑顔と自信を持って子どもと向き合っていく支援ができるよう期待している。

【プライバシー保護への取り組み】

平成6年一戸建ての「子どもの家」を設立し、女の子4～5名の小規模グループケアの実践している。また、本棟は大舎制で1部屋3～5人が一緒に生活をしている。プライバシー保護や子ども自身の自分の居場所づくりを考えると少し不足している面が否めない。部屋は同じでもパーテーションやカーテン、ベッドなどを設置するなど、自分の場所や一人になれる場所を確保できるよう検討して頂きたい。

⑤第三者評価結果に対する施設のコメント

第三者評価をして、今まで目に見えなかったことが分かりました。
総合的評価は予想していた値よりも良く評価していただいた。課題も指摘していただき、みんなで検討して、子どもたちの為に活かしていき、改善したいと思えます。

⑥第三者評価結果（別紙）

第三者評価結果（児童養護施設）

1 養育・支援

(1) 養育・支援の基本		第三者 評価結果
①	子どもの存在そのものを認め、子どもが表出する感情や言動をしっかり受け止め、子どもを理解している。	b
②	基本的欲求の充足が、子どもと共に日常生活を構築することを通してなされるよう養育・支援している。	b
③	子どもの力を信じて見守るという姿勢を大切に、子どもが自ら判断し行動することを保障している。	b
④	発達段階に応じた学びや遊びの場を保障している。	a
⑤	秩序ある生活を通して、基本的な生活習慣を確立するとともに、社会常識及び社会規範、様々な生活技術が習得できるよう養育・支援している。	c
<p>(特に評価が高い点、改善が求められる点)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大きなグラウンドやプール、保育のニコニコハウスなど年代に応じて運動や遊びの場を提供している。敷地内の一角でホテルの保護活動を行い、生き物が育っていく過程を勉強することもできる。また、さくらんぼなど果樹も植えられ、収穫もひとつの楽しみとなっている。 ・訪問した時期は一部の子どもがグループで職員や学校に反抗している現状があり、職員もその対応に追われていた。そのため、子どもの内に秘めた思いまでケアが行き届いていないように思われた。学園生活の中で子どもが未来に向けて色々な技術や生活習慣を身につけられるよう、職員が一丸となって子どもと向き合い、信頼関係を再構築し、より強化して頂くことを期待している。 ・上記のグループ以外の子ども達の心情を受け止め、生活面、学習面等に配慮し、居心地よく過ごせる空間作りに努めていただきたい。 		
(2) 食生活		第三者 評価結果
①	食事は、団らんの場でもあり、おいしく楽しみながら食事ができるよう工夫している。	b
②	子どもの嗜好や健康状態に配慮した食事を提供している。	a
③	子どもの発達段階に応じて食習慣を身につけることができるよう食育を推進している。	a
(3) 衣生活		
①	衣服は清潔で、体に合い、季節に合ったものを提供している。	a
②	子どもの衣習慣を習得し、衣服を通じて適切に自己表現できるように支援している。	a
(4) 住生活		
①	居室等施設全体がきれいに整美されている。	b
②	子ども一人一人の居場所が確保され、安全、安心を感じる場所となるようにしている。	a
<p>(特に評価が高い点、改善が求められる点)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地元で採れる野菜や魚を使って、健康的でおいしい料理を提供している。近所の方が野菜を差し入れしてくれることもある。食物アレルギーがある子どもには定期的に血液検査を行い、適切に対応している。 ・近くにある作陽大学の学生が毎年テーマを変え、食育コラボで紙芝居をしてくれている。お正月には学園に残っている子ども達と一緒におせちを食べたり、鍋やおでんを作って一緒に食べたりするなど、家庭的な雰囲気の中で過ごせるよう配慮している。食育コラボや行事食の実施などにより食習慣の大切さを伝えている。 ・衣服は計画をたてて、職員と一緒に買い物に行き、自分の好みの服を選んでいく。 ・住居は大舎制で一部屋3～5名となっている。毎日、掃除をしており清潔感はあるが、開設から年月が経過しており、老朽化が否めない。 		

(5) 健康と安全		第三者 評価結果
①	発達段階に応じ、身体の健康（清潔、病気、事故等）について自己管理ができるよう支援している。	b
②	医療機関と連携して一人一人の子どもに対する心身の健康を管理するとともに、異常がある場合は適切に対応している。	a
(6) 性に関する教育		
①	子どもの年齢・発達段階に応じて、異性を尊重し思いやりの心を育てるよう、性についての正しい知識を得る機会を設けている。	a
<p>(特に評価が高い点、改善が求められる点)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎朝の検温から始まり、異常の早期発見、早期治療ができるよう健康管理をしている。歯磨きなどの習慣がついていない子どもが多く、歯科検診や職員の丁寧な指導により、だんだんと習慣化され、きれいな歯が生えてきている。 ・性教育について、毎年カラカラさんのワークショップを開催している。また、職員が外部研修にも参加し、スキルアップを図っている。伝えたいテーマに合わせてベテランの職員や女性職員から子どもに話す機会を設けている。 		

(7) 自己領域の確保		第三者 評価結果
①	でき得る限り他児との共有の物をなくし、個人所有とするようにしている。	b
②	成長の記録（アルバム）が整理され、成長の過程を振り返ることができるようにしている。	a
(8) 主体性、自律性を尊重した日常生活		
①	日常生活のあり方について、子ども自身が自分たちの問題として主体的に考えるよう支援している	b
②	主体的に余暇を過ごすことができるよう支援している。	a
③	子どもの発達段階に応じて、金銭の管理や使い方など経済観念が身につくよう支援している。	b
<p>(特に評価が高い点、改善が求められる点)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ゴールデンウィークには子どもがグループに分かれ、それぞれ行事を企画し、実施している。バーベキューや旅行、映画鑑賞などグループで話し合い、決定している。 ・季節の行事や交流会、陶芸体験、お祭りなど様々な年間行事が実施され、子どもの楽しみや経験に繋がっている ・行事の思い出や将来への思いなど子ども達がそれぞれ作文を書き、毎年『あかいやね』という一冊の本を作成している。約1300部を発刊し、後援会理事やボランティアの方々、学校、児童相談所など関係者に配布し、子どもの成長を見守ってもらっている。 ・学園に来てからの写真はアルバムに整理されており、退所時に渡している。 ・子ども達は確かに自己主張をしてはいるが、主体的に生活しているとは感じられなかった。子ども自身でテーマを決めて話し合いができる機会を増やしては欲しい。子どもが出した結論を職員がフォローしながら実践していくことで、自分達が決めたことで生活が変わることを体感し、決めることに対する責任感を子ども自身に感じてもらえればと考える。 		

(9) 学習・進学支援、進路支援等	第三者 評価結果
① 学習環境の整備を行い、学力等に応じた学習支援を行っている。	b
② 「最善の利益」にかなった進路の自己決定ができるよう支援している。	b
③ 職場実習や職場体験等の機会を通して、社会経験の拡大に取り組んでいる。	b
<p>(特に評価が高い点、改善が求められる点)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・宿題や勉強をする場所として畳の間に机を用意している。学生ボランティアの訪問があり、中学3年生を中心に勉強を教えてもらっている。 ・療育手帳を所持している子どももいる等、学力の向上に結びつきにくい面がある。特別支援学校や知的障害児施設も視野にいれ、子どもにとって最善の環境を選択できるよう努めている。 ・高校生になると学校と相談の上、アルバイトを始めることで職場経験を積むことが多い。 	

(10) 行動上の問題及び問題状況への対応	第三者 評価結果
① 子どもが暴力・不適応行動などの問題行動をとった場合に、行動上の問題及び問題状況に適切に対応している。	b
② 施設内で子ども間の暴力、いじめ、差別などが生じないように施設全体で取り組んでいる。	b
③ 虐待を受けた子ども等、保護者からの強引な引き取りの可能性がある場合、施設内で安全が確保されるよう努めている。	a
(11) 心理的ケア	
① 心理的ケアが必要な子どもに対して心理的な支援を行っている。	b
<p>(特に評価が高い点、改善が求められる点)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一部の子どもの集団化による問題行動があり、児童相談所や他の児童養護施設と連携を図り、解決に向けて検討しているところである。職員も子どもとのやり取りに疲れが見られる。仕方ないと感じる面もあるが、今一度何故この状況が生まれたのか、最初のほころびは何だったのか、じっくりと検討する機会を設けていただきたい。 ・臨床心理士により、年間計画を作成し、心理的ケアが実施されている。 ・発達障がいや精神的な疾病があり通院している子どもも多く、通院時には臨床心理士が同行し主治医に情報提供を行い、改善に向けて連携を図っている。 	

(12) 養育の継続性とアフターケア	第三者 評価結果
① 措置変更又は受入れに当たり継続性に配慮した対応を行っている。	a
② 家庭引き取りに当たって、子どもが家庭で安定した生活を送ることができるよう家庭復帰後の支援を行っている。	a
③ できる限り公平な社会へのスタートが切れるように、措置継続や措置延長を積極的に利用して継続して支援している。	a
④ 子どもが安定した社会生活を送ることができるよう退所後の支援に積極的に取り組んでいる。	a
<p>(特に評価が高い点、改善が求められる点)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・退所後に就職した場合、1年間は本人の様子を把握するよう努めている。必要時には訪問や連絡を行い、フォローをしている。 ・退所した子ども達が学園の行事に参加したり、何かあれば相談に来たりする場合もある。相談があればできる限り傾聴し、子どもの未来への後押しのため、柔軟に対応している。 ・学園に相談に来たり、連絡をくれる場合はいいが、年月が経過し、本人の行方が分からないときもあり、心配している。 	

2 家族への支援

(1) 家族とのつながり	第三者 評価結果
① 児童相談所や家族の住む市町村と連携し、子どもと家族との関係調整を図ったり、家族からの相談に応じる体制づくりを行っている。	a
② 子どもと家族の関係づくりのために、面会、外出、一時帰宅などを積極的に行っている。	a
(2) 家族に対する支援	
① 親子関係の再構築等のために家族への支援に積極的に取り組んでいる。	a
<p>(特に評価が高い点、改善が求められる点)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童相談所と連携し、家族とのつながりが持てるよう努めている。ペアレントトレーニングも行っている。家族によっては子どもとの関係作りに消極的な方もおられ、困難な場合もある。 ・里親になるための研修を学園で行っており、児童養護施設の概要を説明し、子どもと触れ合う場も提供している。 	

3 自立支援計画、記録

(1) アセスメントの実施と自立支援計画の策定	第三者 評価結果
① 子どもの心身の状況や、生活状況を把握するため、手順を定めてアセスメントを行い、子どもの個々の課題を具体的に明示している。	b
② アセスメントに基づいて子ども一人一人の自立支援計画を策定するための体制を確立し、実際に機能させている。	b
③ 自立支援計画について、定期的実施状況の振り返りや評価と計画の見直しを行う手順を施設として定め、実施している。	a
(2) 子どもの養育・支援に関する適切な記録	
① 子ども一人一人の養育・支援の実施状況を適切に記録している。	b
② 子どもや保護者等に関する記録の管理について、規程を定めるなど管理体制を確立し、適切に管理を行っている。	a
③ 子どもや保護者等の状況等に関する情報を職員が共有するための具体的な取組を行っている。	a
<p>(特に評価が高い点、改善が求められる点)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自立支援計画作成マニュアルに基づき、専門職からの意見を聞きながら担当職員が自立支援計画を作成している。半年毎に経過を振り返り、見直している。月2回のケース会議が職員間の意見交換や周知の場となっている。 ・小学校4年以上の子どもを学年毎に集めて、将来に向けてどうしていきたいのか等意見や希望を書いてもらい、確認している。 ・記録や情報はパソコンへ入力、管理しており、職員がいつでも見る事ができるようにしている。申し送り事項も入力しているため、いつでも確認することができる。パソコンによる記録管理は3年目になり、職員も慣れてきた所である。 	

4 権利擁護

(1) 子どもの尊重と最善の利益の考慮	第三者 評価結果
① 子どもを尊重した養育・支援についての基本姿勢を明示し、施設内で共通の理解を持つための取組を行っている。	a
② 社会的養護が子どもの最善の利益を目指して行われることを職員が共通して理解し、日々の養育・支援において実践している。	b
③ 子どもの発達に応じて、子ども自身の出生や生い立ち、家族の状況について、子どもに適切に知らせている。	b
④ 子どものプライバシー保護に関する規程・マニュアル等を整備し、職員に周知するための取組を行っている。	b
⑤ 子どもや保護者の思想や信教の自由を保障している。	a
(2) 子どもの意向への配慮	
① 子どもの意向を把握する具体的な仕組みを整備し、その結果を踏まえて、養育・支援の内容の改善に向けた取組を行っている。	b
② 職員と子どもが共生の意識を持ち、子どもの意向を尊重しながら生活全般について共に考え、生活改善に向けて積極的に取り組む。	b
<p>(特に評価が高い点、改善が求められる点)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子ども自身の出生や生い立ちについては児童相談所と相談の上、伝えるかどうかを決定している。一昨年度よりライフストーリーを見直そうと取り組みを始め、子どもが学園に来てからのライフストーリーの記録、アルバムなど成長の記録に加え、本人や保護者から入所前の生活を聞き、把握に努めている。 ・子どもの意向を把握するために園長が直接、面談をしている。時にアンケートを実施することもある。 	
(3) 入所時の説明等	第三者 評価結果
① 子どもや保護者等に対して、養育・支援の内容を正しく理解できるような工夫を行い、情報の提供を行っている。	b
② 入所時に、施設で定めた様式に基づき養育・支援の内容や施設での約束ごとについて子どもや保護者等にわかりやすく説明している。	a
③ 子どものそれまでの生活とのつながりを重視し、そこから分離されることに伴う不安を理解し受けとめ、不安の解消を図っている。	a
(4) 権利についての説明	
① 子どもに対し、権利について正しく理解できるよう、わかりやすく説明している。	b
(5) 子どもが意見や苦情を述べやすい環境	
① 子どもが相談したり意見を述べたい時に相談方法や相談相手を選択できる環境を整備し、子どもに伝えるための取組を行っている。	b
② 苦情解決の仕組みを確立し、子どもや保護者等に周知する取組を行うとともに、苦情解決の仕組みを機能させている。	b
③ 子ども等からの意見や苦情等に対する対応マニュアルを整備し、迅速に対応している。	b

(6) 被措置児童等虐待対応		
①	いかなる場合においても体罰や子どもの人格を辱めるような行為を行わないよう徹底している。	a
②	子どもに対する暴力、言葉による脅かし等の不適切なかかわりの防止と早期発見に取り組んでいる。	a
③	被措置児童等虐待の届出・通告に対する対応を整備し、迅速かつ誠実に対応している。	a
(7) 他者の尊重		
①	様々な生活体験や多くの人たちとのふれあいを通して、他者への心づかいや他者の立場に配慮する心が育まれるよう支援している。	c
<p>(特に評価が高い点、改善が求められる点)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保護者に対する入所時の説明は児童相談所が主に行っている。子どもには施設見学の際、説明を行っている。ホームページには学園の写真や行事、お知らせなど詳しく載っており、分かりやすい。 ・司法書士による法律の話や生命の大切さを伝える話、児童養護施設出身のプロボクサー本人からの話など子どもが色々な視点から物事を捉えることができるよう、働きかけをしている。 ・職員に県が作成している被措置児童等虐待対応ガイドラインの周知徹底を図っている。 ・一部の子どもが集団化し、自分達の権利を声高に主張しているが、一緒に暮らしている他の子ども達にも穏やかに楽しく暮らす権利があることを忘れていないように感じた。他者への尊重の気持ちを育むことができるよう何らかの取り組みを期待している。 		

5 事故防止と安全対策

		第三者 評価結果
①	事故、感染症の発生時など緊急時の子どもの安全確保のために、組織として体制を整備し、機能させている。	a
②	災害時に対する子どもの安全確保のための取組を行っている。	a
③	子どもの安全を脅かす事例を組織として収集し、要因分析と対応策の検討を行い、子どもの安全確保のためにリスクを把握し対策を実施している。	a
<p>(特に評価が高い点、改善が求められる点)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・避難訓練は防火管理者が中心となり月1回実施、そのうち年1回は消防署立ち会いのもと、初期消火訓練なども行っている。昼、夜、出火場所などのパターンを変え、どんな状況でも安全に避難できるよう訓練をしている。以前、非常時のサイレンが誤作動で鳴ったときには近所の方が駆けつけてくれるなど緊急時には地域の協力も期待できる。 ・感染症の予防のためタオルの共有を中止、帰園時のうがい、手洗いを指導している。毎朝の検温実施により、異常の早期発見、早期治療ができるよう努めている。 		

6 関係機関連携・地域支援

(1) 関係機関等の連携		第三者 評価結果
①	施設の役割や機能を達成するために必要となる社会資源を明確にし、児童相談所など関係機関・団体の機能や連絡方法を体系的に明示し、その情報を職員間で共有している。	a
②	児童相談所等の関係機関等との連携を適切に行い、定期的な連携の機会を確保し、具体的な取組や事例検討を行っている。	a
③	幼稚園、小・中学校、高等学校、特別支援学校など子どもが通う学校と連携を密にしている。	a

(2) 地域との交流		
①	子どもと地域との交流を大切にし、交流を広げるための地域への働きかけを行っている。	b
②	施設が有する機能を地域に開放・提供する取組を積極的に行っている。	b
③	ボランティア受入れに対する基本姿勢を明確にし、受入れについての体制を整備している。	a
(3) 地域支援		
①	地域の具体的な福祉ニーズを把握するための取組を積極的に行っている。	a
②	地域の福祉ニーズに基づき、施設の機能を活かして地域の子育てを支援する事業や活動を行っている。	b
<p>(特に評価が高い点、改善が求められる点)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童相談所や学校とは密に連携を図り、情報交換を行っている。年1回、児童相談所と合同で研修会を企画、実施している。現在、子どもが集団化している状況もあり、児童相談所と連携し一時預かりなど利用している。 ・発達障がいを持つ子どもが増えたことにより学校での授業中の課題も増え、先生と一緒に事例検討会を行っている。特別支援学校や知的障害者施設入所等も視野に入れ、子どもにとって一番適切な環境を検討している。 ・町内会に入会しており、清掃活動や夏祭り、運動会などイベントに参加し、交流を図っている。夏休みには時間を決め、地域の子どもが利用できるよう学園のプールを提供し喜ばれている。 		

7 職員の資質向上

		第三者 評価結果
①	組織として職員の教育・研修に関する基本姿勢が明示されている。	a
②	職員一人一人について、基本姿勢に沿った教育・研修計画が策定され計画に基づいて具体的な取組が行われている。	b
③	定期的に個別の教育・研修計画の評価・見直しを行い、次の研修計画に反映させている。	b
④	スーパービジョンの体制を確立し、施設全体として職員一人一人の援助技術の向上を支援している。	b
<p>(特に評価が高い点、改善が求められる点)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年2～3回、医師や大学教授など外部講師を招き、時事に添ったテーマで講演を聞くなど園内研修を行っている。外部の研修やセミナーにもできるだけ参加している。 ・年1回の職員旅行はグループに分かれて行き、県外の児童養護施設の見学も併せて行っている。いろいろな施設を知る事で見聞を広げるよう努めている。この取り組みは昭和59年から継続しており、見学を通して人との出会いがあり、多方面の方との交流に繋がっている。 ・園内での課題解決に向けて職員同士の意見交換や検討、専門職や基幹的職員からの指導などスーパービジョン体制の充実が期待される。 		

8 施設の運営

(1) 運営理念、基本方針の確立と周知		第三者 評価結果
①	法人や施設の運営理念を明文化し、法人と施設の使命や役割が反映されている。	a
②	法人や施設の運営理念に基づき、適切な内容の基本方針が明文化されている。	a
③	運営理念や基本方針を職員に配布するとともに、十分な理解を促すための取組を行っている。	b
④	運営理念や基本方針を子どもや保護者等に配布するとともに、十分な理解を促すための取組を行っている。	b

(2) 中・長期的なビジョンと計画の策定		
①	施設の運営理念や基本方針の実現に向けた施設の中・長期計画が策定されている。	b
②	各年度の事業計画は、中・長期計画の内容を反映して策定されている。	b
③	事業計画を、職員等の参画のもとで策定されるとともに、実施状況の把握や評価・見直しが組織的に行われている。	b
④	事業計画を職員に配布するとともに、十分な理解を促すための取組を行っている。	b
⑤	事業計画を子ども等に配布するとともに、十分な理解を促すための取組を行っている。	b
<p>(特に評価が高い点、改善が求められる点)</p> <p>・『1、人間性豊かな子 2、心身ともにたくましい子 3、健全な社会人として生きていける子』を養育目標に掲げ、支援を行っている。</p> <p>・事業計画は毎年4月に職員に配布し、説明をしている。年度末には職員で振り返りをし、理事会で報告をしている。事業計画書では基本方針として6つの大きな項目に詳細な項目が列記されており、どこに重点を置いているか分かりづらい面がある。また、事業報告書では行事や研修などの記載が多く、基本方針に対する振り返りの記載が少ない。できれば、事業計画の中で具体的な取り組み内容も含めた重要課題を掲げ、振り返りの際、取り組み方法や達成度について検討して頂きたい。</p> <p>・今の所、中長期計画が作成されていない。小規模グループケア推進や施設のリフォームなども視野に入れ、中長期計画を作成して頂くことを期待する。</p>		

(3) 施設長の責任とリーダーシップ		第三者 評価結果
①	施設長は、自らの役割と責任を職員に対して明らかにし、専門性に裏打ちされた信念と組織内での信頼をもとにリーダーシップを発揮している。	b
②	施設長自ら、遵守すべき法令等を正しく理解するための取組を行い、組織全体をリードしている。	b
③	施設長は、養育・支援の質の向上に意欲を持ち、組織としての取組に十分な指導力を発揮している。	b
④	施設長は、経営や業務の効率化と改善に向けた取組に十分な指導力を発揮している。	b

(4) 経営状況の把握		
①	施設運営をとりまく環境を的確に把握するための取組を行っている。	a
②	運営状況を分析して課題を発見するとともに、改善に向けた取組を行っている。	a
③	外部監査（外部の専門家による監査）を実施し、その結果に基づいた運営改善が実施されている。	a

<p>(特に評価が高い点、改善が求められる点)</p> <p>今年度より新しく園長に赴任したこともあり、まだ分からないことも多いと伺った。しかし、子どもに対する思いはとても温かく優しい。保育の子ども達が笑顔で抱きついたり、背中によじのぼったりしているのを拝見し、その思いが伝わっていることを感じた。中学校の校長をしていた経歴もあり、子どもの学力向上へ強い思いがある。園長室に子どもが来た時に、ひらがなや数字を教えるなど子どもの目線に立ち、一緒に勉強していこうと働きかけている。また、職員との話し合いや支援の振り返りについても今後、力を入れていきたいと伺った。職員との信頼関係を基に、子どもの目線に立った支援への指導力を期待している。</p>		
--	--	--

(5) 人事管理の体制整備	第三者 評価結果
① 施設が目標とする養育・支援の質を確保するため、必要な人材や人員体制に関する具体的なプランが確立しており、それに基づいた人事管理が実施されている。	a
② 客観的な基準に基づき、定期的な人事考課が行われている。	b
③ 職員の就業状況や意向を定期的に把握し、必要があれば改善に取り組む仕組みが構築されている。	b
④ 職員処遇の充実を図るため、福利厚生や健康を維持するための取組を積極的に行っている。	a
(6) 実習生の受入れ	
① 実習生の受入れと育成について、基本的な姿勢を明確にした体制を整備し、効果的なプログラムを用意する等積極的な取組をしている。	a
<p>(特に評価が高い点、改善が求められる点)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人事考課については客観的な基準に基づいて行われているとは言い難いのが現状である。園長より職員自身の自己評価や上司からの評価に基づき、個人面談なども行っていきたく伺った。職員が自分の得意分野を活かした支援を行うためにも実施に向けて検討して頂くことを期待している。 ・県内外の短期大学、福祉系大学より実習生を受け入れ、指導をしている。また、看護専門学校から子どもとの交流を知ってもらうための実習も受け入れている。 	

(7) 標準的な実施方法の確立	第三者 評価結果
① 養育・支援について標準的な実施方法を文書化し、職員が共通の認識を持って行っている。	a
② 標準的な実施方法について、定期的に検証し、必要な見直しを施設全体で実施できるよう仕組みを定め、検証・見直しを行っている。	b
(8) 評価と改善の取組	
① 施設運営や養育・支援の内容について、自己評価、第三者評価等、定期的に評価を行う体制を整備し、機能させている。	b
② 評価の結果を分析し、施設として取り組むべき課題を明確にし、改善策や改善実施計画を立て実施している。	b
<p>(特に評価が高い点、改善が求められる点)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・健康管理マニュアル、危機管理マニュアルなど各種マニュアルや規定を作成しており、いつでも見る事ができるようにしている。 	